

# 経営理念と中期計画

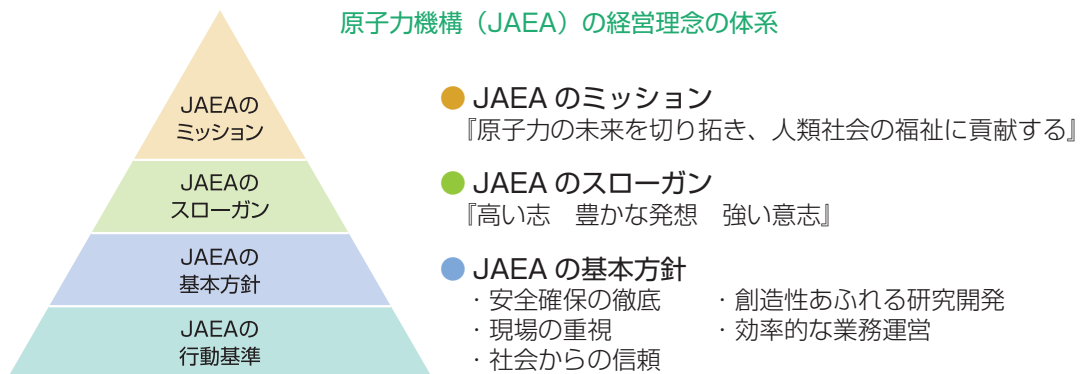
原子力機構は、我が国唯一の原子力の総合的研究開発機関として、原子力により国民の生活に不可欠なエネルギー源の確保を実現すること及び原子力による新しい科学技術や産業の創出を目指して、その基礎・基盤から応用・実用化までの研究開発を行うとともに、その成果等の普及を行い、もって人類社会の福祉及び国民生活の水準向上に寄与することを目的としています。

## 経営理念

[http://www.jaea.go.jp/O1/1\\_13.shtml](http://www.jaea.go.jp/O1/1_13.shtml)

原子力機構は経営理念を階層構造で体系化して規定しており、設立目的とミッション（果たすべき役割）を踏まえ、役職員の業務運営の規範とするとともに、経営姿勢を表明します。

### 原子力機構（JAEA）の経営理念の体系



### 独立行政法人日本原子力研究開発機構「行動基準」

#### ■安全確保の徹底

- 一 私たちは、社会の人々の安全確保を第一に行動します。
- 一 私たちは、事故の未然防止、影響緩和及び再発防止に努めます。また、万一、事故や災害が発生した場合には、迅速かつ的確な措置と復旧に努めるとともに、透明性の高い情報提供を行います。
- 一 私たちは、安全確保のための品質保証活動に継続的に取り組みます。
- 一 私たちは、省エネルギー、省資源、廃棄物の低減を図り、環境保全に努めます。

#### ■創造性あふれる研究開発

- 一 私たちは、原子力機構の使命を自覚し、その達成に全力を尽くします。このため、常に研鑽を重ね、専門能力を磨き、創意工夫と革新的技術を駆使して競争力のある研究開発に挑戦します。
- 一 私たちは、原子力の平和利用のため、世界と交流し、国際社会をリードし貢献します。
- 一 私たちは、チャレンジ精神を発揮し、仕事を通じて自己実現を目指します。
- 一 私たちは、社会及び産学官との対話と連携を密にし、研究開発成果の移転や実用化を積極的に進め、社会の発展に貢献します。

#### ■現場の重視

- 一 私たちは、成果を生み出す研究開発の現場を大切に、研究開発の推進と施設の安全確保の両立を目指します。
- 一 私たちは、一人一人の人格や個性を尊重し、安全で、明るく働きやすい職場づくりに、また、新しいことに果敢に挑戦する風土づくりに努めます。

#### ■効率的な業務運営

- 一 私たちは、国民の負託により業務を行っていることを認識し、自ら事業の選択と経営資源の集中を行い、効果的・効率的な業務運営に努めます。
- 一 私たちは、常に経費の効率的な運用と適正な管理に努めます。

#### ■社会からの信頼

- 一 私たちは、法令、内部規定等のルール、企業倫理を遵守します。
- 一 私たちは、取引先、地域社会、国際社会等と取り交わした契約や約束を誠実に履行します。
- 一 私たちは、社会とのコミュニケーションを通じ、業務の透明性の向上に努めるとともに、説明責任を果たします。
- 一 私たちは、広く成果を公開し、社会の評価を仰ぎます。
- 一 私たちは、一人一人が原子力機構の一員であると同時に、社会の一員であることを自覚し、常に良き社会人として誠実に行動します。

中期計画（2005年10月1日から2010年3月31日） [http://www.jaea.go.jp/O1/1\\_6.shtml](http://www.jaea.go.jp/O1/1_6.shtml)

原子力機構は、主務大臣（文部科学大臣及び経済産業大臣）から指示された中期目標に基づいて作成した中期計画に沿って事業を進めています。

中期計画において、原子力機構の業務を定める「国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置」は、以下の6項目で構成されています。

- ①エネルギーの安定供給と地球環境問題の同時解決を目指した原子力システムの研究開発
- ②量子ビームの利用のための研究開発
- ③原子力の研究、開発及び利用の安全の確保と核不拡散に関する政策に貢献するための活動
- ④自らの原子力施設の廃止措置及び放射性廃棄物の処理・処分に係る技術開発
- ⑤原子力の研究、開発及び利用に係る共通的科学技術基盤の高度化
- ⑥産学官との連携の強化と社会からの要請に対応するための活動

これらのうち、特に環境問題の解決に貢献する研究・開発に関連するものをご紹介します。

①では、

- ・高速増殖炉（核分裂に高速の中性子を利用する原子炉）サイクルの確立に向けた研究開発
- ・高レベル放射性廃棄物の処理・処分技術に関する研究開発
- ・分離・変換技術の研究開発（高レベル放射性廃棄物を合理的に低減する分離技術と核変換技術）
- ・高温ガス炉（冷却材であるガス温度を約950℃と高めた原子炉）とこれによる水素製造技術の研究開発
- ・核融合エネルギーを取り出す技術システムの研究開発
- ・民間事業者の原子力事業を支援するための研究開発

などを実施しています。

②では、ライフサイエンス、ナノテクノロジー等の様々な科学技術分野における優れた成果の発出に貢献し、先端的科学技術分野の発展や産業活動の促進に資することを目的として、中性子、荷電粒子・放射性同位元素、光量子・放射光等の量子ビームの高品位化や利用の高度化等を目指した量子ビームテクノロジーの研究開発を実施しています。

④では、原子力機構の研究開発に伴って発生する施設の廃止措置、放射性廃棄物の処理・処分及びこれらに係る技術開発を実施しています。

⑤では、我が国の原子力研究開発の基盤を形成し、新たな原子力利用技術を創出するための原子力基礎工学研究及び将来の原子力科学の萌芽となる未踏分野の開拓を進め、新原理、新現象の発見、新物質の創生、新技術の創出を目指した先端基礎研究を実施しています。

業務の実績に関する評価

[http://www.jaea.go.jp/O1/1\\_6.shtml](http://www.jaea.go.jp/O1/1_6.shtml)

文部科学省及び経済産業省の独立行政法人評価委員会において、2009年8月に原子力機構の2008年度評価が行われます。

評価結果については原子力機構ホームページをご覧ください。

低炭素社会に向けた取組

原子力機構では、低炭素社会に期待される原子力エネルギーの新しい技術の研究開発や、低炭素社会の豊かな暮らしを支えるためのいろいろな分野の研究に、組織をあげて取り組んでいます。

また、原子力機構は2008年10月に低炭素社会を見通した「2100年原子力ビジョン」を発表し、原子力機構が取り組んでいる課題がエネルギー・環境問題に対して、将来どのような形で社会に貢献できるかを定量的に示しました。

「環境報告書2009」では研究開発に取り組む組織、「2100年原子力ビジョン」や研究開発についてもご紹介いたします。